

子どものお口の中の症状



こんな症状よくあるかも?? お口の中の観察は重要です!!

子どもは自覚症状を的確に訴えることができず、お口の中をしっかりと診察することが難しいこともあります。保護者の方の聞き取りが重要になることがあるので日頃からお口の中を観察しておきましょう。



じょうひしんじゅ 上皮真珠

乳歯が歯ぐきの中で作られている過程で、本来ならば自然に体内に吸収される「歯提」と呼ばれる組織が吸収されずに残ったもの。白色ないし黄白色の半球状の硬い腫瘍だが、自然に消滅するため治療の必要はない。



生まれて間もない赤ちゃんのお口にできる。歯のようなかたさはない!

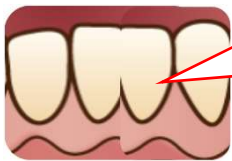
溝はおし歯になりやすい!



ゆごうし・ゆちゃくし

癒合歯・癒着歯

癒合歯・癒着歯は正常な隣り合った歯が合体したもので、永久歯に比べ、乳歯に多い。約40%の割合で後続永久歯の欠如がある。特に治療の必要はない。



2本の歯がくっついているので、1本と数えます

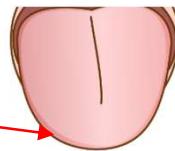
先天性歯(リガフェーデ病)

生まれた時にすでに歯が生えている。歯があることにより、哺乳出来ず、舌の裏側に歯があたり潰瘍(リガフェーデ病)を起こしたり、お母さんの乳首に傷がつき、授乳に支障をきたすことがある。この歯を抜歯するようにすすめる先生もいれば、抜歯以外の方法を試みる先生もいる。

このような時、歯の先を少し丸めると、潰瘍も治り、お母さんの乳首の痛みも解消され、授乳を続けることもできる。

一度抜いてしまうと、歯が生えてくることはない。

しかし、歯のぐらつきの程度によっては、抜歯をするのが正しいこともある。できれば早めに、小児歯科の専門医に相談すること。



舌の下に傷ができる



生まれた時にすでに生えている

正常

上唇小帯付着異常

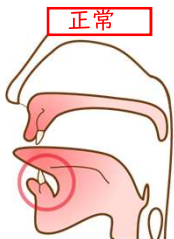
上前歯の真ん中にある、上唇の内側のひだが、太くて長い状態。乳歯の時に見られることが多く、成長とともに小帯は退縮・移動するが、前歯の生え変わりの時期になってもそのままだと発音障害がでたり、永久歯がすきっ歯になってしまうこともあり、歯科医院で小帯を切除する処置が必要となる場合もある。



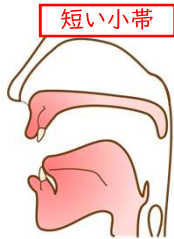
小帯が太かったり、歯と歯の間に入り込んだりする場合があります

舌小帯短縮(強直)症

舌の下にある小帯を舌小帯と言い、新生児期に舌の先まであった小帯が成長過程で退縮移動しなかったことで生じる。症状としては、舌を前に出したときに舌の先がハート状にくぼんだり、(ハート舌)、口を開けた状態で舌を上へあげることができない等の症状がある。発音に影響が出ることもある。



正常



短い小帯



ハート状になる

気になる症状は、自己判断せずにかかりつけ歯科医に確認してもらいましょう!!



手足口病

主に夏に流行する、夏風邪の代表。
手のひら、足のうら、口の周りや口の中に小さな赤い発疹や水ぶくれができる病気。おしりやひざにできることもある。

※
手足口病はウイルスが含まれた咳やくしゃみを吸い込んだり、
手についたウイルスが口に入ったりすることで感染する。
症状がおさまった後も、患者の便の中にはウイルスが含まれる
(2~4週間)ので、トイレ使用時やオムツ交換の際には注意が必要



手足口病の原因となるウイルスは複数あるため再発することもあり、近年では成人が発症するケースも増えている。

まれに髄膜炎や脳炎など重篤な合併症を引き起こすこともあるため注意が必要。

喉の痛みや口の痛みが強く食べれなくなることもあるので、脱水に注意が必要。

麻疹(はしか)

麻疹の口の中の症状は、頬粘膜に苔状の小さな白斑の密集が見られる。その周囲には赤みもみられる
←これがコプリック斑。
直ちにかかりつけ医を受診。

空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強いと言われている。

免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われている。

39度の高熱と発疹



口唇ヘルペス

ヘルペス・ウイルスの感染によって起こる病気で、唇の一部に小さな水泡ができる。タオルやコップの共有は避ける。唇は腫れて痛くなる。治療は抗生物質の軟膏を塗ることと、抗生物質の全身投与を行う。ヘルペスが出てくる前は、ジンジンする感じがする。体調が悪くなったり、疲れると出る場合がある。

現在は抗ヘルペス剤の軟膏が市販されていますが、初めて出た場合は、病院を受診しましょう



そうせい

叢生

歯が重なりあって凸凹になっている歯並びのこと。
乳歯列できれいに並んで生えていると永久歯列は、叢生になりやすい。



かみ合わせに対する矯正を希望する場合は開始時期も考えて専門医療機関を受診しましょう

反対咬合

歯のかみ合わせが通常、上の歯が下の歯に覆いかぶさるのに対して反対咬合は下の歯が前に出ている。軽度の場合、前歯の生え変わりの時期に自然に治ることもあるが、遺伝的要因が強い場合は自然に治ることが少ないので、かかりつけ歯科医を受診する。



俗にいう「受け口」

上顎前突

上の歯(または上あご全体)が下の歯に比べて前方に突出した状態のかみ合わせ。いわゆる「出っ歯」。習慣化した指しゃぶり、舌突出癖(舌の先が日常的に自然と上下の歯の間についていること)があると、歯が出っ歯になってくることが多い。



かいこう

開咬

奥歯がかみ合っているにもかかわらず前歯がかみ合っていない状態。遺伝的な問題や幼少期の指しゃぶり、舌で上下の前歯のすき間を押し下りたりするのが原因となる。習慣的な指しゃぶりや舌突出癖が原因になることがある。



この他にも不正咬合があります。気になる場合は、歯科医療機関を受診しましょう

